時事新報

第千二百五十四號
明治十九年四月二十日　火曜日
舊丙戌三月十七日（庚戌）
日出午前五時二十三分　日入午後六時三十六分
月出午後八時二十分　月入午前六時三十分
滿潮午前六時三十六分　午後六時五十六分
（西曆一千八百八十六年）

時事新報定價
一枚金三錢○一箇月前金六十五錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓四十錢○一箇年前金六圓五十錢○郵便税一箇月金廿六錢○一箇年金三圓十二錢○左ニ揭グル各地ニ於テハ該地賣捌所ヨリ配送無料ニテ配達致候（但本社ヨリ直接郵送スルモノハ此限ニアラズ）
中京、横濱、横須賀、從神奈川至小田原驛、函根七湯、大坂、京都、大津、神戸、尾ノ道、郡山、笠岡、岡山、南畠、和歌山、徳島、高知、下ノ關、長崎、名古屋、岐阜、岡崎、豊橋、四日市、津、松坂、山田、山形、福島、二本松、石ノ巻、白石、函館、青森、弘前、宇都宮、高崎、鹿沼、八王子、千住、草加、越谷、粕壁、杉戸、幸手、久喜、關宿、千葉、寒川、佐倉、東金、市川、八幡、船橋
其他同地近傍配達便宜ノ個所ハ同シク配送料不申受候

時事新報廣告料（前金）一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢	六錢八厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢二厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

南京米の受渡（前號の續き）

日本各地れ米商會所みて南京米の受渡を許すとともに爲らば時宜に因り賣方は南京米ばかりを渡し買方れ之を受取りて一時其需要者を得るに困しみ米商の間に當惑そるもれある可しとの掛念もあれども畢竟謂れなき事共あり前號みも陳述せし如く米商會所の定期賣買れ賣買正しく平均しく差引精算し盡すもの實に多く約定の期限み至りて現米を受渡そるものは甚ざ少なし例へば目下東京府下みて一箇年間の米の需要は凡そ百萬石と號し其中地廻りと稱して埼玉、栃木、千葉、茨城の四縣より三十萬石、陸前陸中より十五萬石、尾三勢濃より十五萬石、越後より十萬石、加賀能登越中より十萬石、肥後播磨等より七八萬石を供給し凡そ八十七八萬石は米穀廻漕問屋等の手を經て東京に入り小賣米商人の媒介にて府下百萬れ人民に分配し米商會所の賣買を經て府民の需要に達するものは僅々十二三萬石み過ぎず年み十二三萬石とあれば月に一萬石内外みして即ち此一萬石は東京米商會所にて一箇月間み受渡そる米の總數なり然るに同會所一箇月間の出來高を過般會所減税以來凡そ九十萬石ありと云へば九十萬石を賣買しても賣方忽ち買手と爲り買手又賣手に變して賣買相平均するが爲め先約定期限み至りて受渡そるものは僅かみ一萬石み過ぎざれば今後南京米を授受したりとて受渡米非常に增して之を受取りたる米商に於て其賣捌方に當惑するが如きとありとも思はれず即ち南京米の受渡を許せば賣方は南京米ばかりを渡し爲めみ買方を苦しむ可しとの掛念は實際無用あるを知るべきなり

前陳の如く南京米れ格附を立つると六ヶ敷からず之を受渡するの際にも亦苦情なしとすれば米商會所みては速かみ其受渡を許し其の外穩當の道なかるべし扨これを許して其利益如何と云ふに先づ米商賣の區域を廣む可し、從來日本は産米國にして米商賣も甚ざ盛なりしかども其商賣たる唯日本國内に限りて海外の米況に關係せず米商が未來の米價をトするにも日本國の豐凶晴雨の模樣を察し日本國の政變の動きを視るに止まりて曾て外國の豐凶如何に注意することなし然るに今若し南京米の受渡を許せば日本れ米商も眼を内國のみに畜らず安南の米作、印度の秋晴、東方亞細亞各國の政變に關心して米況を視察そるの眼界を廣めざるを得ず斯くて眼界を廣むれば從來は日本國に産する三千萬石内外れ米を目當として商賣したるに今は東亞細亞各國幾千萬石の米を附け加へ之を目當として賣買そることと爲り米商の胸膈もまた〳〵大に米商會所賣買約定の出來高も亦自から增加そることあらん又今一つの利益といへば南京米を受渡するよりして日本の米商人を誘ふて外國の智識を增さしむることあり凡そ人間の眼力と射利の的の在る所に向ふより穎敏なるはなし今日の米商れ安南、暹羅、緬甸、ベンゴル等は亞細亞の何の部分に在るや其方角さへ諳せざるもの多かる可しと雖ども今後會所にて南京米が正當の地位を得て然らも此南京米れ安南ベンゴル等の地に産するものありと聞かむ射利心み刺衝せられて勢、其米の産地を穿鑿せざるを得ず先づ穿鑿の手始めとして南京米を耕作收穫する模樣、之を搗く器械、之を輸出する手續、耕作の費用、役夫の賃錢、租税の輕重より運輸の便否に至るまで一々之を調査し去り尚其國の人情風俗までを諳知するとも爲る可し凡そ外國の地理事情等は學校の教授にも聽く所なれども平常記憶み留まるもの少なし唯其國み何の注意を促す事柄あれも其事柄より種々に思想れ端緒を引延して永く之を忘れざるは人心の常なり例へば安南、埃及の如き亞細亞、亞弗利加洲中みて甚ざ無名の國なりと雖ども近年安南みは佛軍の役あり埃及みれ英兵の遠征ありて其戰爭攻守の地と聞き土人の勇怯、氣候の寒熱を報じ來る毎に一時の好奇心に刺衝せられて思はず此無名國れ事情に通じたる者少なからず彼岸れ火事に等しき遠國の軍事に就ても尚且斯の如し況んや我身に適切ある商賣の利害み刺衝せらるゝに於てをや射利の眼を以て商品の産地を見るときは其事々物々記憶に存せざらんと欲するも得べからず即ち教へずして學ばずして其地の智識を得るものあれば其效力は學校教授の比み非ざるべし世に英國人は世界の智識ありと云へども其原因は畢竟此邊に存することあらん射利の刺衝を以て商人れ智識を廣め貿易の區域を大にして南京米の受渡れ其事小なるが如しと雖ども其關係甚ざ大なり我輩は我が米商人が自身の利益のため又た自國の開進のために之れを馬耳東風み付せざらんことを希望するものなり（畢）

雜報

○鐵道競爭の效能　米國みて鐵道競爭の盛なる由れ前號の紙上にも記せしが本月十七日發兌のメール新聞に載せたる三月二十四日付の桑港通信を見るみ此競爭に依りて運賃の非常に下落せし爲め先づ大に荷物旅客の數を增し競爭の初まる前には紐育より桑港へ運送する商品は平均一週間に千噸以下なりしに今は毎週四千噸位づゝの荷物あり且つ此迄鐵道にて運搬せざる商品の出入も多く例へバカンサスより小麥を桑港み送りカリフオルニヤより乾葡萄をニューヨークに送り又ユニオン、パシフヰック鐵道會社にては今度紐育より桑港へ牡蠣百輛積程と運送する約束を爲したる由之を見れば運賃低廉なるときは市場み出る品物は非常み增加すると知るべし又旅客の運賃も古來未曾有の下落にて各鐵道會社ともに二十五弗にて桑港より紐育迄旅客と運送し又パナマを經て右兩所の間と往來する太平洋郵船會社の汽船は四十弗みて旅客を載せ右兩所間の航海日數は三十五日と要し其間の賄ひは皆會社の受持なり乍去斯く低價の運賃みても鐵道會社みは損失なき譯にて今より六週間程前には桑港より毎日午後三時に紐育み向けて出發する列車の乘客は大抵平均上等（百二十五弗）六名中等（九十弗）下等（六十弗）合せて二十名位にして之を運送するに機關車一輛上等客車一輛通常客車二輛及び移民車一輛を要せしに昨日（三月廿三日）桑港と出發したる列車れ上等（二十五弗）三十二名中等下等（双方平均一人に付十八弗）合せて五十名の旅客ありて客車の數は上等五輛通常客車移民車と合せて五輛合せて十輛なれども之を引く機關車れ矢張り六週間前に四輛の列車を引きたるときと同じ一輛にて足り其外上等汽車の給仕人の數が前より多き外は一も異りたるとなく而して其の給仕人の費用は鐵道會社より出るにあらざれば會社の費用は前と同一にして其收入は大に前よりも增加したればなりとあり運賃と五分一に引下ぐても尚前よりも餘分の利益あるの適例は目前米國み在るを見れば日本にて鐵道運賃と十分に低廉するも決して政府又は鐵道會社の損失とならざるとを悟るべし

○東北鐵道工事（前號れ續き）　秋田縣下の交通運輸論に二派あり一は海運一は陸運なり然るに同管内の良灣四箇あり由利郡古雪、山本郡能代、及び南秋田郡に土崎あり舟川あり共み恰當れ港なきども能代と古雪は一隅に僻在せるを以て管内一般の便と計ると能はず中央れ土崎港は稍々可なれども唯遠淺にして巨船と入るゝに便ならざれば之を完良の港とそる迄みは數百萬圓と費さゞると得ず舊藩以來測量を試みたるも着手に至らずして已みたると屢々あり舟川は灣形好良なるも其場所寧ろ狹隘にして輻湊の地とするに足らず彼と云ひ是と云ひ海運論は對坤勢力を得ると能はざしく輿論れ終み陸運に歸するみ至れり先年日本鐵道會社にて委員を派出して株金募集の擧ありし時は其の線路秋田管内を通過するものみあらずとて縣下の人々其募み應ずるもの僅少なりしが昨年六月其線路の東京より宇都宮間と通過そるとありてより大に人々の熱心を鼓動し加ふるに恰も好し山形み於ては福島より支線を引き酒田に達せんとを計り且つ都合にて其線路と枉げ院内峠を經過せしめんと計畫せしみ仍り秋田の鐵道論も一層の勢力と得たり其上青森縣弘前地方みても此論あると以て共に相計りて此れ線路と延長し東京より青森に達そるれ幹線たらしめんとを企圖せり昨冬秋田通常縣會の開設み際しこれと議會み計りしに滿場の一致賛成する所となり建議書と縣令に提出す於是赤川舊縣令之と嘉納して自ら率先力を盡し更に論告書なるものを發布し縣官と計りて株主たるとも許諾し同縣令の盡力にて縣下の各郡長み其事を諮詢し管内の鐵道里程を五十里と假定し惣株金四百萬圓の内二百五十餘萬圓の豫約を訂結するに至きり是に於て發企人等も大に力と得自ら株金に署名

し廣く管内一般
玄との報あり而
れより先本年一
秋田み會同して
三月再び東京み
りとなり此事に
去る四月七日各
も由なり。
○夏織物の景況
失敗したる由に
は昨年み比すれ
らず價格も昨年
路と呈さるに至
生品は相場手堅
玄の減少玄たる
二三の品は俄か
も同樣不味を極
しき下落に至り
二圓五六十錢、
○三重通信　勢
縣下茶況　縣下
日頃より製造
の早きと春雨の
非常の上作にて
り隨く製茶の着
ふ○縣令巡回
[illegible]郡巡視として
隨行せり○公會
建築中なりしが
内み假設せし郡
參宮者多し　昨
ざる好時節とな
旅人非常に增加
といふ程の有樣
○福井通信　福
製紙地の衰頹
古來よりの製紙
を製出し幕府の
と幕府み納め來
以來は右御用紙
以て賣高頓に減
業に轉ずるもの
方郡椿峠ハ非常
せし場所なり玄
程漸く切割りて
國庫補助金及有
に其便利を喜び
を經て敦賀港に
されむ多分本年
集　今回本縣に
日より本縣々會
格の者は來月中
○青森縣　にて
より午後五時ま
路を羽前羽後を
めの鐵道株金應
したるよし○私
盛大に赴く模樣
氏あり